

勝瑞発掘だより

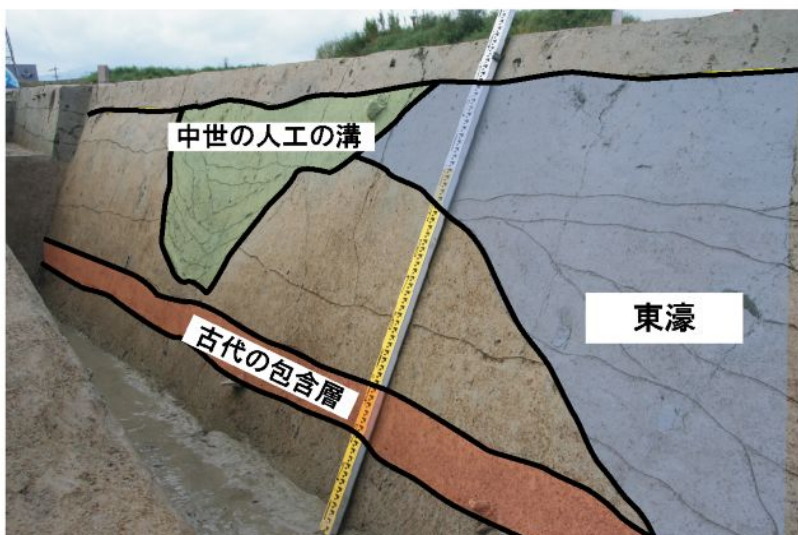
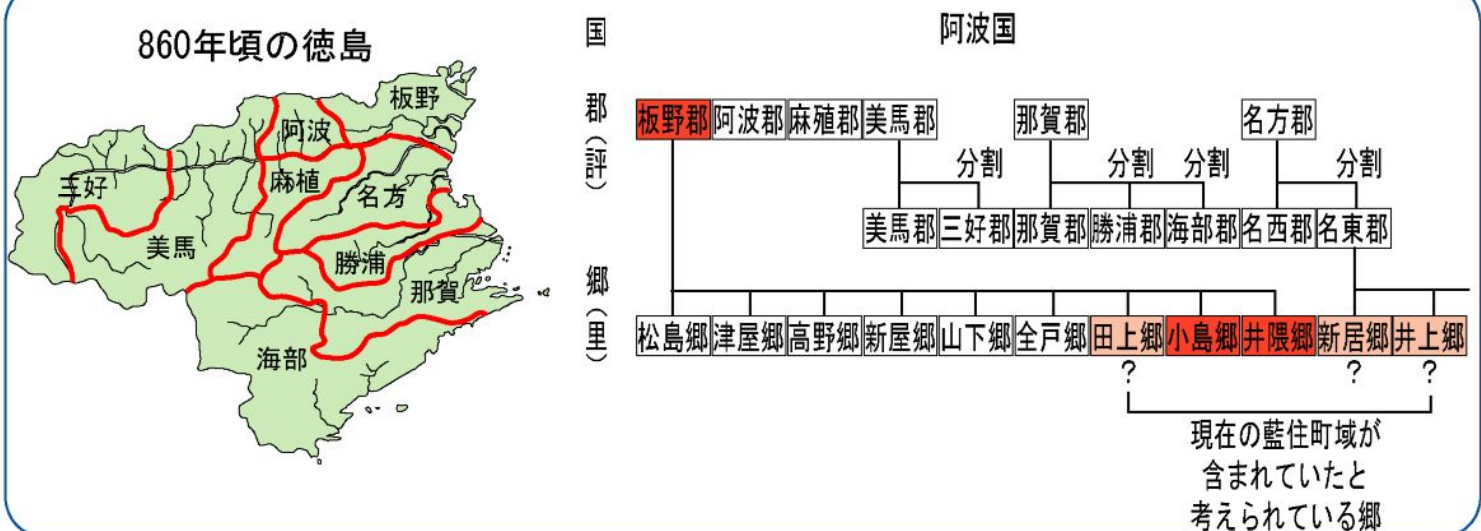
vol. 31
2007年5月号

現在、勝瑞では史跡整備を目的として中世の城館跡の調査をしています。
では、それ以前の藍住町はどんな姿をしていたのでしょうか？
今月の発掘だよりは、中世から時代をさかのぼったアウトサイドストーリー

藍住町では、中世以前の確かな遺跡はみつかりません。

ただ、いろいろと説があるものの奈良・平安時代の阿波国(徳島県)板野郡(おおよそ鳴門市から阿波市の東側までの吉野川北岸)の井隈郷(いのくまごう)、小島郷(おしまごう)などが現在の藍住町にあたると考えられています。藍住町奥野には猪隈(いのくま)の小字名が現在もあります。

阿波国板野郡井隈郷と書かれた木製の荷札(にふだ)が平城京跡から2点出土しており、海部(あまべ)・秦部(はたべ)といった名の人たちが住んでいたことがわかっています。



勝瑞城館跡では確認調査や深い遺構を掘ったときにみつかれるものですが中世の時代に生活していた地表面の下に、飛鳥～平安時代の遺物がまじっている層が確認されています。

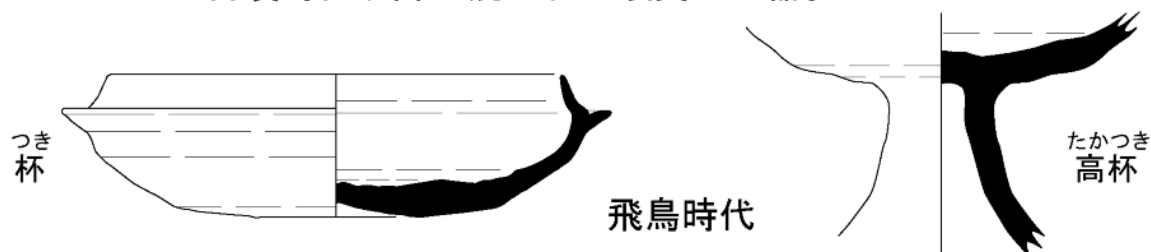
遺構もいくつかみつかり、遺物も出土しているので古くから勝瑞周辺で人々が生活していたと考えられます。

勝瑞で出土した古代の遺物

はじき
土師器 古墳時代～平安時代にかけての素焼の土器。奈良時代の皿が出土。

せきしよくとさいはじき
赤色塗彩土師器 . . 都で使われていた赤い土師器を真似て、地元で作った土師器を赤くぬったもの。

すえき
須恵器 古墳時代以降に焼かれた硬質の土器。



りよくゆうとうき
緑釉陶器 鮮やかな緑色の釉薬を塗った陶器で京都府周辺・滋賀県・山口県・愛知県周辺と限られた地域で生産されました。古代の役所跡、お寺跡、集落跡などから出土することが多く、お祭に使われていたと考えられています。



(S=1/2)

古代の勝瑞はどんな姿をしていたのでしょうか？

第13次勝瑞城館調査は、機械掘削が終了し人力掘削を開始しました。



ばん
青磁の盤や皿、天目茶碗などが出土しています。

勝瑞の古代の遺物については
7月中旬から、企画展示を
計画しています。乞うご期待！

問い合わせ先
藍住町教育委員会 社会教育課
勝瑞発掘現場事務所
TEL・FAX (088) 641-3466
URL: <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>
E-mail: syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp

